

## 民鉄文化の伝承と発信

[民営鉄道の博物館・資料館 — その使命と役割 —]

体験型施設で  
まちづくりと  
交通機能を学ぶ。

東急電鉄が管理運営する「電車とバスの博物館」が開館したのは1982年。当時、首都圏で鉄道に関する博物館と言えば、「交通博物館」（2006年に閉館）がほぼ唯一で、民鉄による博物館の開館は大きな注目を集めた。

輸送という仕事の重要性、都市交通とまちづくりの関係を、子どもたちに分かりやすく正しく伝える。交通文化を学ぶ、その展示内容は高い評価を得て、博物館は「電バス」の愛称で広く親しまれている。

文◎茶木 環 撮影◎織本知之



電車とバスの博物館 館長  
(株式会社東急レールウェイサービス 業務部)

古山昌明

Masaaki FURUYAMA

開館10年未滿で100万人が来館

——開館直後から大変な人気だったと伺っていますが、開館の経緯などからお話いただけますか。

古山 東急電鉄の創業60周年事業の一環として、1982年、田園都市線高津駅の高架下に開設されました。日頃ご利用いただいている沿線の方々に感謝を伝えたいとの思いからでしたが、大変な人気で、オープンから3カ月も経たないうちに来館者が10万人を超え、90年には100万人を突破しました。

その後、大井町線の溝の口延伸に伴う複々線化工事のため、2003年に現在の宮崎台駅に移転しました。移転からさらに10年以上が経過して老朽化が目立ってきたことから、16年2月に館内展示や施設のリニューアルを行っています。

——どのようなコンセプトで運営されているのですか。

古山 入館口に記されている故五島昇の言葉の通り、人や物を運ぶ輸送という仕事は、人々の暮らしの中で大きな役割を果たしています。鉄道やバスな

どの大量高速交通の発達に伴って、都市と経済は飛躍的に発展してきました。この博物館は、子どもたちに交通とまちづくりの関係を理解し、さらに正しいものの見方、考え方を培ってもらうことを願って開館しています。

その想いは現在も変わることなく、鉄道やバスの仕事、設備を、気軽に「見て、触れて、体験」できる博物館をコンセプトに運営しています。

——具体的にどのような館内展示になっているのでしょうか。

古山 高架下の斜面に建つ4階建ての

A棟と、A棟と道路を隔ててB棟があります。本館に当たるA棟は、宮崎台駅改札前からエントランス通路で直結しており、博物館入り口は4階部分に当たります。1階入り口もあります。

館内は、入館口の下3階に七つの展示コーナーがある「パノラマワールド」、2階が実物車両を展示する「ゾーン3450」、1階が電車やバスの運転を体験できる「シミュレーターワールド」となっています。B棟には、主に低年齢の子どもたちを対象にした「キッズワールド」を設けています。

実車展示は、ゾーン3450に往年の名車デハ3450形の先頭車を展示しているほか、シミュレーターワールドに往年の東急バス2台と、1969年に廃止された玉川線で活躍したデハ200形2両編成を展示しています。

また、キッズワールドには「澁谷・櫻木町」のヘッドマークをつけたモハ510形、日本エアシステムで使われていた戦後初の国産旅客機YS-11の先頭部カットモデルを展示しています。

### 体験型施設の充実でリニューアル

——リニューアルに際しては、どのように進められたのですか。

**古山** まず最初に、お客さまのニーズを把握しようと来館者アンケートを実施しました。年齢や性別などの属性、来館の動機や頻度、自宅の最寄り駅や交通手段、好きなコンテンツ、博物館に対するリクエストなどを調査して、その結果、当館をご利用になるお客さまの多くは「田園都市線沿線のお客さままで、電車に乗って、父母と来る未就学児が多い」「リピーターが多い」ことが分かりました。それらを踏まえてリニューアルを検討していくことにしました。

——小さな子どもたちが何回も訪れて、遊びながら自然に学べる施設ですね。

**古山** アンケートでは、冷暖房が完備された屋内施設で、天候に左右されずに安心して遊べるという利点が高く評

価されていました。しかしその一方で、展示コーナーや車両などのコンテンツが古い、マンネリ化していて代わり映えないという意見も多かった中で、「体験できる施設」をテーマに、「展示コーナーの充実」と「コンテンツの更新」を二本柱に館内展示を刷新しました。

また、東横線のCGシミュレーターも2台新設しました。運転士養成訓練に使用しているCGソフトを子どもでも運転できるように改良したものです。

で展示しており、ノッチとブレーキの操作で車輪とブレーキを動かすことができるほか、ドアの開閉、車内放送マイクを使って車掌体験もできるようになっています。

——主にどのような展示が導入されたのでしょうか。

また、東急線の1日を紹介する背景映像を新たに作り、BGMは鉄道ミュージシャンで知られる向谷実さんが作曲しています。東急線の運転士など鉄道マンの仕事を紹介する短編映画も併せて上映しています。

——都市の交通を担う電車とバスを一体的に捉えているところが大きな特色になっているかと思えます。

**古山** 以前から評価をいただいていた運転シミュレーターでは、幅広い世代のお客さまに楽しんでいただけるように、さらに多彩な運転シミュレーターを整備していきました。

——実車展示でも、実際に乗車して操作が体験できるようになっていますね。

**古山** 電車とバスは都市の交通機関の二本柱だと思っています。東急グループは、地域の住宅開発や東急ストア、東急百貨店など商業施設の充実に代表されるように、各部門が一体となつて、まちづくりに取り組み、鉄道線やバス路線を発達させてきました。まちづくりと電車・バスには密接な関係があるということを理解していただけれ

を重視できるように、機能を選択できるように、モードモードまで、三つの難易度を大きく更新しました。また、運転区間も田園都市線、大井町線、東横線の三つの路線があり、種別も各駅停車、特急、急行を用意しています。モードや路線、種別に選択肢があり、終了後には採点が出たりするなど、飽きずに何度でも挑戦したくなるような工夫を凝らしています。



エントランスに掲げられた銘板。五島昇社長（当時）の開館の言葉が記されている。



電車とバスの博物館1階エントランス。東急各線のラインカラーに塗り分けた8色の柵が楽しい。ベビーカー置き場も用意されている。



H0ゲージの模型電車を運転できるジオラマ・シミュレーター。壁面には電車のさまざまな仕事を解説するパネルが並ぶ。

るお客さまも多い。また次の世代へとつなげていただけるように、沿線のお客さまに親しまれる施設として、期待に応えていきたいと思っています。

## DENBUS NIGHT MUSEUM イベントを開催

——「大人も面白い」ではなく、「大人だからこそ面白い」というポイントがありますか。

**古山** 少し変わったイベントなんです。[DENBUS NIGHT MUSEUM]を開催しています。昼間はやはり子どもが優先となるため、「大人ももっと楽しみたい」という声がありました。それではということで、20歳以上の人を対象に会費制で、大人だけで博物館を貸し切り、楽しんでいただくナイトミュージアムの企画です。社員を対象に実験的に実施してみたところ好評で、一般の企画として実現しました。警備などの問題もありますので、80人ぐらいに限定して、普段は有料のシミュレーターやNゲージパークも無料で開放します。参加されるのは30、40歳代の方が多いのですが、土曜日に開催すると、東急沿線だけではなく、首都圏以外の遠方からもいらつしやいます。

——同じ展示でも、大人には大人なりの楽しみ方ができそうですね。

**古山** そうですね。パノラマワールドには、かつての高津駅を再現した「東急コレクション」というコーナーがあります。

ります。また旧型電車をイメージしたコーナーで鉄道関係の書籍や雑誌をご覧いただける「ミニ・ライブラリー」があり、これらのコーナーの周辺にはかなり古い資料を一部展示しています。昭和の空気が醸し出されていて、この一角は、大人の方ならではの楽しみ方をしていただけるのではないかと思います。

——一方、子ども向けの展示では、鉄道やバスの仕事をより深く理解してもらう工夫もされていますか。

**古山** 「電車のしごと」のコーナーでは、運転士や車掌、駅員の仕事だけではなく、普段、子どもたちの目に触れることのない保線や電気技術員の仕事も紹介しています。パノラマシアターでも、車両工場や保線、電気関係などの仕事を紹介した映像を上映して、鉄道を支える仕事の全般をより深く理解してもらえるように工夫しています。

また、バスの実車展示には、メンテナンスに使っていた道具類と一緒に展示しています。お客さまにはなかなか見ていただけない陰の努力を感じ取っていただけるのではないかと思います。

——今後の課題としては、どのようなことがありますか。

**古山** 鉄道用具や機器、図書や文書など、収蔵品を整理して展示する機会がないので、これからどうやって活用していくかが課題かと思っています。イベント時に、東急コレクションの

旧高津駅で、古い乗車券類をご覧いただいたり、硬券に日付けを入れてお土産としてお持ち帰りいただいたことがありました。お客さまに楽しんでいただけるイベントを企画して、その内容に合わせて資料を有意義に活用していきたいと考えています。

また、昨年、池上線90周年記念行事として開催された「池上線フリー乗車デー」は大変な賑わいでしたが、今年も当館主催で池上線のフォトコンテストを開催します。皆さまからご応募いただいた写真と一緒に、当館の資料も展示して楽しんでいただければと考えているところです。

——他の大手民鉄の博物館である「東武博物館」や「地下鉄博物館」とは、どのような連携を取られていますか。

**古山** ここに足を運ばれるお客さまは、他のさまざまな鉄道系博物館も楽しまれていきます。私自身、当館の常連とも言えるようなお客さまに地下鉄博物館でお会いしたことがあります。

それぞれの特色がある東武博物館、地下鉄博物館、そして当館と3館を回って見えてくる面白さもあると思います。東武博物館と地下鉄博物館とは定期的に営業やインバウンド対応に関する情報交換をしており、いずれスタンプラリーのような企画を3館合同でやってみたいと考えています。そのような形で連携を取りながら、沿線の方々に愛される博物館づくりをしていきたいと考えています。

ばと思っています。

——生活に身近な電車とバスという交通手段を通して、自分たちのまちを改めて意識することになりますね。

**古山** 田園都市線沿線にお住まいの方々が多く、ご来館いただいているので、おそらくそうだと思います。実車展示している東急コーチは、今で言うデマンドバスで、停留所以外でも乗降できました。年配の方がいらつしやると、このバスを見て「ああ、懐かしい」とおっしゃいます。皆さんと一緒に刻まれてきた歴史を感じる瞬間ですね。展示してよかったですと思います。

今年で開館36年を迎える当館は、開館時に子どもだった世代がお父さん、お母さんになって子ども連れで来館してください。祖父・祖母と三世代でお越しにな

## 電車とバスの博物館

東急電鉄創業60周年を記念して1982年に開設された鉄道とバスの保存展示施設。次世代を担う子どもたちに、「交通とまちづくりの関係」を正しく伝えることをそのコンセプトとしている。2016年2月に、旧「博物館」をA館、旧「イベント館」をB館と改め、館内設備を刷新、リニューアルオープンした。充実した体験施設が特徴で、親子連れを中心に高い人気を博している。



かつての玉川線を走ったデハ200形を展示。「渋谷⇄二子玉川園」の行先表示板を付けた2両編成の連結車は、館内の休憩施設として利用できる。



神奈川県川崎市宮前区宮崎 2-10-12

- 最寄り駅 東急田園都市線 宮崎台駅（宮崎台駅直結）
- 開館時間 10:00～16:30（入館は16:00まで）
- 休館日 毎週木曜日（祝休日の場合は翌日）・年末年始
- 入館料 3歳から中学生100円、大人200円



昭和30～40年代の駅舎を再現した旧高津駅。出札窓口の内部など細かく再現している。



映像と音楽に合わせてH0ゲージの模型電車が走るほか、東急マンの仕事を紹介した短編映画を放映するパノラマシアター。



沿線住民に親しまれた東急コーチの第1号車。運転シミュレーターが設置しており、バス運転体験ができる。



8090系運転シミュレーター。3つの難易度の中から好きな路線、種別を選択できる（有料：1回300円）。



東横線CGシミュレーター。運転士養成訓練にも使われているものを子ども向けに改良。



デハ3450形のカットボディと台車をセットで展示している。運転室内で台車を動かすなどの各種操作ができる。



日本航空機製造YS-11-109「なると」のカットボディ。



1930年代に製造されていたモハ510形を復元展示。車内も公開されている。